



題字：鳩山威一郎
機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階
TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月1回 10日発行
会費(4月~3月)
個人/3,000円以上
法人/10,000円以上

第8回定時評議員会開催

2023年度事業報告・計算書類承認 | 70周年記念事業総括

新たに加わった評議員を交えて 事業担当理事から詳細な報告24

6月22日(土)午前11時より第8回定時評議員会が友愛サロンに於いて開催され、主要な議題である2023年度事業報告及び計算書類(決算書)について、報告・協議がなされた。第一号議案2023年度事業報告、第二号議案2023年度計算書類共に、全会一致で承認された。2024年度から就任した評議員も加わり、活発な議論が行われた。

議長が選任されるまでの間、鳩山由紀夫理事長が進行を務め、定款第23条に基づき、互選による議長の選任を諮ったところ、戸澤英典評議員にとの声があり、全員に諮ったところ全会一致で戸澤英典評議員を議長とした。

議長が選任されるまでの間、鳩山由紀夫理事長が進行を務め、定款第23条に基づき、互選による議長の選任を諮ったところ、戸澤英典評議員にとの声があり、全員に諮ったところ全会一致で戸澤英典評議員を議長とした。

議長が選任されるまでの間、鳩山由紀夫理事長が進行を務め、定款第23条に基づき、互選による議長の選任を諮ったところ、戸澤英典評議員にとの声があり、全員に諮ったところ全会一致で戸澤英典評議員を議長とした。

議長が選任されるまでの間、鳩山由紀夫理事長が進行を務め、定款第23条に基づき、互選による議長の選任を諮ったところ、戸澤英典評議員にとの声があり、全員に諮ったところ全会一致で戸澤英典評議員を議長とした。



友愛ユニオンの活躍を基に、新たな日韓関係が生まれる事を期待していますと挨拶 鳩山由紀夫理事長
70周年記念式典・記念事業も無事終了し、新しい友愛が躍動する時だと思えます。戸澤英典議長

及び事務局長が、それぞれの事業がつつがなく実施されている旨を報告した。
② 国際交流事業
その1 O E J A B 派遣事業 / 西川理事
その2 O E J A B 受入事業 / 西川理事
その3 ミヤンマー農業支援・農業指導者育成事業 / 井田理事
③ 表彰事業
その1 小論文コンテスト / 櫻上理事
④ 普及啓発活動
その1 創立70周年記念事業 / 芳賀理事
その2 機関紙「友愛」の発行 / 羽中田事務局長
その3 友愛ユニオン勉強会開催 / 後藤理事
その4 友愛ユニオン交流会開催 / 後藤理事
その5 ホームページの公開・更新 / 羽中田事務局長
2 2023年度計算書類(決算) 報告
事業に関する報告を終え、議長が質問を募ったところ全員が事業報告に関しでは理解している旨を伝え、議長は2023年度の計算書類についての報告を理事長に求め、理事長は、羽中田事務局長を報告担当として指名した。

債 事業比率について説明、報告した。
3 監査報告
2023年度事業報告・計算書類に関する報告を終え、議長が監事に対し、監事監査報告を求め、海方亨 監事が、これに添え監査報告書を読み上げ、監査報告を終えた。
議長が協議事項に入る旨を告げ協議事項に移った。
4 協議
議長は、第一号議案、第二号議案共に既に詳細な報告を受けていることから、決議を諮る旨を告げ決議を諮ったところ、第一号議案2023年度事業報告及び第二号議案2023年度計算書類とも、全会一致で承認された。

続いて議長は、各担当理事に、事業の現状報告を求め、各事業担当理事が下記の通り、それぞれの提出する資料を基に、現状報告を行った。
以上をもって予定された議事全部の審議及び報告を終えた。
昨日が鳩山邦夫理事長の祥月命日であることから、議長からの提案、全員が一分間の黙祷を捧げた。13時00分、議長は閉会を宣し、解散した。

出席者
戸澤英典評議員・萩原直三評議員・田中正基評議員・高橋佳大評議員・小西健斗評議員・森崎桃子評議員・青山高恵評議員
鳩山由紀夫理事長・井上和子理事・谷藤悦史理事・芳賀大輔理事・西川伸起理事・井田安信理事・櫻上哲夫理事・山崎偉広理事・山口千恵子理事・後藤大智理事
海方 亨 監事

森崎桃子評議員(友愛ユニオン)
青山高恵評議員(旧友愛婦人会所属)

友愛時評
久々に長めの家族旅行を計画している。夏休みにドジャース大谷を観戦したいという希望から始まった話だったが、歴史的円安と米国のインフレが進む中で大枚をはたく余裕もなく、格安航空券を駆使して沖縄から台湾を回ることで手を打った。大まかな旅程を手配し現地プログラムを相談しているのだがイマイチ噛み合わない。家族からのリクエストは、スキングダイビングや「海馬遊び」など南の島を満喫しようというものはかなりで、こちらが提案するのは旧海軍総司令部壕や辺野古テント村である。果たして歩み寄ることができるのか、何とも心許ない。戦争跡地や被災地など死や悲しみにまつわる場所を訪問する観光は「ダークツーリズム」と呼ばれる。時として野次馬根性の発露に過ぎず、あるいは人の不幸をビジネスとする側面には批判も見られるが、無関心よりはよっぽどましと思う。さて台湾ではどこに行こうかと調べるうち、複雑な状況に気づいた。沖縄では、旧日本軍による沖縄戦から米軍による占領期と返還後の基地の存続にまつわる場所がダークという点に異論ないだろうが、台湾の場合には日本統治期への評価や大陸中国への態度によってデータとされるものが異なるらしい。▼そもそも台湾にも足を延ばそうと思いついたのは、人民解放軍創設百周年にあたる二〇二七年までに習近平政権が「中台統一」を図る可能性を説く論説を目にしたからであった。まあ杞憂だよな、とカバランウイスキー蒸留所の検索に転じたが、今度は家族に即却下される未来線が頭に浮かんでいる。(ヒゲ)

事業報告書・計算書類は、HPにて閲覧できます。



私にとって友愛とは in 韓国

手塚 七彩

何気ない出会いを大切に、国籍・人種・性別の壁を越えて、誰に対しても誠実な気持ちで接すること。全州大学の学生の皆さん

今回の全州大学訪問、学生の皆さんとのディスカッションはまさに私の考える友愛を体現する場となりました。

全州大学の学生の皆さんは我々の訪問を温かい笑顔で迎え入れてくれました。わからない言葉があり



全州大学で友愛ユニオンのメンバーがそれぞれの「私にとって友愛とは」をスピーチ。友愛ユニオンとしての活動の中で培われた「友愛理念」を、独自の切り口から構築した内容で語り、大きな拍手を受けた。講堂を埋め尽くす聴衆を前に、各人見事なスピーチを行った。登壇しているのは手塚七彩さん。後列は既に登壇を終えた(写真左側)小倉佑太さん・巳上小楽咲さん。これから演壇に立つ(写真右側)左から北島貴央さん・橋嶋太郎さん・鈴木健太さん

人の繋がりにおいては、歴史や国益は考慮されず、相手を知らず、仲良くしたいという純粋な気持ちだけが存在しています。その国境を越えた小さな繋がりの積み重ねが、強力な力となり大きな成果を導くのではないかと。今回の交流を経てそう感じました。

テーブルディスカッションではSDGsについて議論を交わし、17のゴールを達成するために自分たちは何が出来るかを一緒に考えました。

SDGsには「誰一人取り残さない」というテーマがあります。

これは、環境問題や先進国/途上国という枠組みに限ったものではないと考えます。日々の生活で困っている人を見つけた際に、手を差し伸べられているか。コミュニケーションの中で

で、誰かを置き去りにしてしまっていることはないか。地球で暮らす一人の人間として「誰一人取り残さない社会」を達成するために出来ることを考える良い機会となりました。

うございました。学生の皆さんとの交流はもろもろですが、理事長や理事の方々も同行させて頂き、道中様々なお話を伺うことが出来たのは、とても刺激的で有意義でした。この場を借りて改めて御礼申し上げます。(社会人)

YOU (全州大在校生) & I (友愛メンバー) MAKE WE & WORLD.

鈴木 健太

私にとって初めての韓国。今回は友愛ユニオンのみんなの思いを背負って、日本と韓国の架け橋になるために臨みました。

その後友愛ユニオンメンバー6名が、それぞれが思う「私にとって友愛とは？」をスピーチしました。

全州大学に訪れ、ホールで鳩山由紀夫先生や全州大学の副総長の講話等をお聞きしました。

その言葉に耳にした時、友人に対する親愛の言葉だと思っていました。しかし、友愛ユニオンメンバーとして「フードロス」について、

様々な活動を行う中で、「友愛」という言葉は友人だけでなく、見ず知らずの他者も含まれていると感じております。他者(相手)の長所短所、強さ弱さ、そして自分との違いや共通点を受け入れ、理解することが友愛精神ではないかと思ひ、全州大学の学生の皆さんにスピーチしました。

それぞれが感じていることをざっくりばらんに話し合いました。グループの皆さんからの意見で一番印象に残っているのは、韓国のレストラン等は提供される食事の品数が多く、すべて食べきれないことが多いという意見でした。

最後に私がお滞りしたホテルの朝食も、日本と比べて品数が多いと感じました。これは韓国の食文化が、お客さんにたくさんのお食料をおもてなしを、という文化の表れだそうなんです。日本との食文化の違いとして気付くことができました。

スピーチは、短い時間ではありましたが、この後全州大学の学生の皆さんとのグループディスカッションの時間が設けられているので、そこで皆さんのことを知り、私たちのことを知ってもらえたらなと思っていました。

他にも、韓国では日本のアニメが流行っていること、日本と韓国の間で留学生の数が増えていること等が盛んになっていること等楽しく話し合いました。

友愛の活動を通して、友愛精神を育み、学び合おうことができます。カムサハムニダ。(社会人)



初めての試みとして行われた、若者同士による「テーブルディスカッション」。鳩山由紀夫理事長も各テーブルを回り、質問したり、意見交換に聞き入りたりと、積極的に若者との交流を実践された。橋嶋太郎さんの担当するテーブルで



櫻上哲夫理事長も各テーブルを回り、若者の様子を観察。6テーブル設置され、各テーブルに友愛ユニオンのメンバーが一名ずつ割り当てられ、全州大学の学生と意見交換。若者同志の強みで、すぐに打ち解けていた。巳上小楽咲さんのテーブル



共通テーマは「環境問題」。各人の意見を付箋紙に書き込み、大きな紙の上でグループ分けして結論を導く方法が取り入れられた。言葉の壁を越えて、積極的に意見が飛び出してくる。テーブルを飛び出し壁を活用して議論。小倉佑太さんのチーム



このテーブルのテーマは「植林と環境」。難しい問題を与えられ、みな真剣な表情で議論を進める。友愛ユニオン一人一人に対して、全州大の学生は12名ほど。仕切りながら意見を聞きだし、テーマの総合意見を導いていく。北島貴央さんのテーブル



初めて会って、難しいテーマでのディスカッションを終えて、既にみんな既知の友人の如く打ち解けている。若者の可能性とエネルギーに、素晴らしい未来が見えている。全員が指でハートをつくるポーズをとって記念撮影。鈴木健太さんのグループ

容中律の世界で育まれる友愛精神

北島 貴央

5月26日から28日にかけて、韓国・全州にて、全州大学の学生たちとディスカッションを通じて交流をしてきました。移動が多く、またハードなスケジュールではありましたが、プログラムを通じて多くの発見があり、非常に貴重な経験となりました。

私が担当したテーブルでは、全州大学の学生10人と共に植林についての理解を深め、活動をさらに効果的に進める方法について議論しました。参加した学生のバックグラウンドは非常に多様であり、高校を卒業したばかりの1年生から、兵役を終えた学生、社会人を経験した後に再び学び始めた学生まで様々でした。ディスカッションは期待通りに盛り上がり、大変充実したものとなりました。予定された時間が短かったため、全ての意見を十分に引き出すことは難しく、その点、それぞれの学生が持つユニークな視点は非常に興味深いものでした。鳩山理事長が講演でおっしゃっていた「容中律」に基づく命題への考え方が、すでに学生たちの中に馴染んでいて印象的でした。一緒に植林について考えてくれた学生たちには深く感謝しています。

今回の派遣を通じて、対面での議論することの価値を再認識できました。私たちのテーブルでは「人間社会と自然が共存できるクリーンな未来を志向しよう」という共通理解に達しました。これ自体は大きな出来事ではないかもしれませんが、日韓の若者が直接議論し、一つの結論に達した事実には非常に大きな価値があります。お互いの状況を理解し、尊重し合う姿勢があれば、このゴールには簡単に辿り着けなかったでしょう。まさに、ディスカッションの中で友愛精神が育まれた結果だと思えます。

この精神があれば、環境問題に限らず、さまざまなテーマについて対話ができるかと確信しました。改めて、本当に有意義な時間でした。このような活動が今後も継続・拡大し、多くの若者に国境を超えた対話の機会が増えることを願っています。

私自身でいえば、同世代の若者たちにも同じような経験をしてもらえるように、できることを実行に移していけたらと考えています。最後になりましたが、私たちを歓迎してくださった全州大学の関係者の皆さま、そして派遣をアレンジしてくださった友愛事務局や理事の皆さまに改めて感謝申し上げます。

(社会人)

Z世代における日韓交流の在り方

已上 小楽咲

友愛小論文コンテストの韓国開催は今回が初となります。担当の携上理事から、韓国の大学生と直接的な繋がりを形成し日韓関係の発展に貢献するという役割が、私たちユニオンメンバーに託されました。

心からの歓迎の意を感じ、緊張がほぐれた状態で、次のグループディスカッションに移ることができました。

私たちの班では、公共交通機関の利用をテーマに取り上げ、日韓の状況についての情報共有や意見交換を行いました。

Z世代の私たちにとって、一度の出会いが一生の宝物です。実際、連絡先を交換した学生たちとは、今もSNSで交流を続けています。

私たちが若者の可能性を信じ、貴重な機会を与えてくださった鳩山由紀夫理事長をはじめ全ての関係者の方に、深く感謝申し上げます。

(大学生)

2024年度OEJAB派遣員募集スタート!

全国の学生から募るOEJAB派遣員の募集が始まりました。今年も加わりました。読者の皆さんのお知り合いにも是非ご紹介ください。ホームページに詳細を掲載しています。下記QRコードからご覧いただけます。



公益財団法人友愛 主催 国際交流事業

オーストリア*への派遣学生募集



公益財団法人友愛の公益事業として、2024年度の派遣員を大学生(2年生以上・大学院生含む)の中から募ります。ウィーンでの10日間、多くのことを学習できる絶好の機会です。要項は下記の通りです。 ※現地受入団体 OEJAB エヤップについては OEJAB

記

- 1) 期 間 2025年3月1日(土)～3月10日(月)予定
*国際状況により、実施日程が変更される場合があります
- 2) 参加費用 50,000円(往復航空券代金・現地滞在費用・旅行保険代含む)
*宿泊はエヤップの所有する宿泊施設(ホテル等)朝食付き
- 3) 内 容 難民救済事業等エヤップ運営施設訪問・在所者との交流
国連機関等訪問、現地観光等
活動内容の詳細はQRから友愛HP/活動内容に掲載されています
- 4) 参加条件 友愛HPの応募要項参照 (応募者は必読の事)
- 5) 応募方法 公益財団法人友愛HPより申込書をダウンロードし、必要事項記入(写真貼付)の上、①申込書・②推薦状・③作文・④成績表
①②③④を友愛事務局へ郵送すること。 *詳細は応募要項参照
- 6) 締 切 2024年9月23日(月・祝)必着 *応募書類は返却いたしません。
- 7) 選考方法 有識者等で構成される「選考委員会」にて選考
一次選考/書類選考(男女計12名程度)
二次選考/面接による選考(男女計6名以内)
面接実施日/2024年10月26日(土)(一次選考の結果通知に集合時間等記載)
*面接は、公益財団法人友愛事務局で行います。面接時の交通費・宿泊費(必要な場合)は、友愛が負担します。
- 8) 発表 2024年10月中旬一次選考結果発表 *各人に通知します(郵送)
2024年11月中旬二次選考結果発表 *各人に通知します(郵送)



友愛勉強会・懇親会でのひとこま



HP(QR)に活動報告掲載



2022年度 第二陣/国連機関の中庭にて

公益財団法人友愛 〒112-0002 文京区小石川1-10-13 TEL 03-5684-3188
https://yuai-love.com

◆毎日「危険な暑さ」が続いています。読者の皆さまが、お健やかに過ごしの事を祈るばかりです。地球温暖化のせいなのでしょう。昔はこんなには暑くなくなりました。私の育った山梨県大月市は盆地で、冬の寒さも夏の暑さも厳しいところですが、それでも35℃が通常という状況ではありませんでした。天気予報で気温が発表される度に思うのですが、あれは観測用の「百葉箱」の中で記録された「学術的温度」だと感じます。日差しを遮り、風も通る造りの百葉箱の中の温度と、直射日光や照り返しを受けられる状況では、体感温度は相当違うと思います。ぬる目のお風呂の温度の様な毎日、8月9月と続くのでしように。皆さまくれぐれもご自愛ください。

(も)



2024年度会費納入のお願い

機関紙『友愛』と併せて、会費振込用紙を送らせていただいております。この振込用紙をご利用いただき、2024年度会費をお送りください。皆さまからお寄せ頂く会費が、友愛活動の源です。よろしく願い申し上げます。

*毎年同封しておりましたお願い状は、郵便法の関係で同封できません。悪しからずご了承くださいませようお願い申し上げます。

お問い合わせは友愛事務局までお気軽に